



# 紺碧

調布稲門会 会報

2021.7 第54号

年2回(1月、6月)発行

事務局 〒182-0006

調布市西つつじヶ丘1-10-4

睦・エンゼルハイムつつじヶ丘506

石田欽也方

Tel 080-1021-9105

Fax 042-487-6872

E-mail toumonkai@gmail.com

URL(HP) https://tohmonchofu.jimdofree.com/

発行人 山田和子

## 調布稲門会設立40周年記念号



### 早稲田大学校友会 調布稲門会

目次 1~5P 林初代会長&山田現会長インタビュー対談	9P 今後の稲門会の姿・展開は？
6~7P 「平成卒」若手幹事大いに語る——誌上座談会	10~11P 躍動する同好会活動／13同好会と稲門祭、
8P 調布稲門会に入ってよかった！	「キテネ」特別プロジェクト

### 林初代会長&山田現会長インタビュー対談

林初代会長と大いに語る——調布稲門会設立40周年を迎え、電話対談

「最後の早慶戦で歌った『都の西北』の感動、忘れられない」「今も毎晩、就寝時に校歌を歌う」(林初代会長)

文 会長山田和子(昭49文)

調布稲門会設立40周年を迎えるに当たり、林貞夫初代会長(名誉会長、昭25法)と現会長である私、山田和子とで5月2日に電話対談をしました。林さんは、調布稲門会設立に奔走され、18年間会長を務められた会のレジェンドです。当初ご自宅を訪問し対談する予定でしたが、コロナ変異株の市中感染の兆しが見えてきたため、残念ながら直接お会いするのは断念、林さんから電話対談のご提案を頂き実現しました。私は2004年入会のため設立当時のことは知りません。当時のお話を中心に思い出話などを興味深くじっくりと拝聴しました。ご高齢にもかかわらず、お疲れを感じさせずの90分間の対談でした。このように林さんから設立時の話から、その後の稲門会活動のお話までお伺いし、会報「紺碧」に書くのは初めてのことと思います。

**<林さん、開口一番、校歌のこと熱烈に語る>**

「林さんのご卒業は昭和25年、私が生まれたのがその年です。」対談を始めるに当たり、共通の部分がある昭和25年だったので、ここから話を始めました。「えー、50代とって思っていました！」若く見られるのは嬉しいが、10歳以上若いと言われるのは気恥ずかしい。

「留学生に接することが多く、元気をもらっているからでしょう。」とお答えしました。

早速対談を開始しようとしたところ、開口一番触れられたのが校歌のことでした。「毎晩布団の中で歌っています。今の方がしっかりと歌えます。」思わぬ話の切り出しに驚きました。総会などの集まりでも先輩会員たちが凛として背筋を伸ばし、腕を力強く振り校歌斉唱される姿には、いつも圧倒されています。

林さんは、1943年10月16日に開催された出陣学徒壮行早慶戦(最後の早慶戦)を観戦されました。校歌と「最後の早慶戦」は記憶の中でしっかりと結びついている様子。「あの試合は感動しまし

た。当時は、神宮外苑競技場での学徒出陣式より印象が強烈でした。在校生しか観戦を許可されず、まだ府立二中生だったため、早大の学生証、学生服・学帽を借り、兄の和男(当時早大軟式野球部員/2015年野球殿堂入り)と一緒に、戸塚球場(後の安部球場)へ入りました。試合も、球場全体に響き渡った『都の西北』も一生忘れられません。」その



山田会長



林名誉会長

5日後、10月21日に神宮外苑競技場で出陣学徒

壮行式典が雨の中で行われています。

映画になった「最後の早慶戦」を見ても感動します。戦争末期に、壮行試合を目の当たりにした若き林さんの胸の内はただ感動だけではなくかったと思います。

**<調布稲門会設立のきっかけをお話してください。>**

調布稲門会の設立は1981(昭56)年10月31日。多摩地区12番目の設立。(現在26校友会)早大が設立100周年(1985年)を迎える4年前。

1979年11月、「府中校友会松本三郎会長が兄和男の会社に見え、三多摩地域早大校友会に調布からの出席の要望があり、有志が出席、その後すぐ

調布稲門会設立準備に入りました。」初代会長に推された和男氏が日本リトルリーグ創設に尽力するというので固辞されたため、いきさはあったが林さんが引き受けられた。「先輩会員も多く、仕事真っ盛りで会長を引き受けることは全く考えて



2014年新年会で乾杯の発声をする林さん

いませんでした。」

**<設立準備には、どの世代が中心的役割を果たされたのでしょうか?>**

設立時、林さんは55歳、会員募集に奔走した有志の人たちは40歳代。「現役世代の校友が中心となり設立準備をしました。校友会からの名簿をたよりに郵送はもとより、個人、そして企業を回り、その企業内でも会員募集をお願いしました。」

**<設立総会の様子をお聞かせください>**

「設立総会は、当時国領にあった第百生命ビル地下大ホールで盛大に開かれました。大学から清水総長、西原次期総長、友田校友会代表と松本秘書課長、そして三多摩10市の稲門会会長にご出席頂きました。出席会員は150人を超え、大盛況でした。」「現在の総会出席者はその半数程度です。その時の熱気はいかほどだったかと思えます。」

**<異業種交流会だったのでしょうか？>**

設立当時は、エズラ・ヴォーゲル著「ジャパン・アズ・ナンバーワン」(1979年)で示されたように日本的経営が高く評価された高度経済成長の時代。それに続く1985年のプラザ合意後のバブルの時代と重なります。現役世代の熱気のある異業種交流の場でもあったのではないかと推察し質問しました。「正にそういう活気のある会でした。」

**<会の理念についてお聞かせください。>**

「設立当初からの会の理念は『会員相互の親睦』、『早稲田大学の発展に寄与』、『地域社会へ貢献』の3つです。」林さんは、紺碧創刊号で、調布稲門会を「心のふるさと」にしたいと抱負を述べています。「会員とは同好会、懇親会などの行事を通して、地域社会貢献は年末恒例の福祉まつりバザー等を通して、大学とは寄付を通して行われ、

稲門祭参加は積極的にはしてきませんでした。」現在は大学、三多摩地区との交流は林さんの時代よりは活発になってきているようです。

**<調布稲門会の伝統行事である社会福祉協議会福祉バザーを始めたきっかけと三田会との交流についてお聞かせください。>**

林さんは調布稲門会より5年後設立の調布三田会との交流も大事にされてきました。「〇早慶戦」を行い両方の会を盛り上げる工夫をされてきました。「ソフトボール、ゴルフなど同好会の半分ぐらいは早慶戦を行っていました。」

「調布稲門会設立と時を同じくして社会福祉協議会の理事、副会長に、1997年には会長に就任しました。その縁で調布三田会とともに1990年12

月第13回調布市福祉まつりバザーに初参加して『福祉の早慶戦』を始めました。またこれは3つの理念のうちの『地域社会へ貢献』の始まりでもありました。三多摩地区稲門会の中で地域貢献の取り組みは調布が最初でした。」

『福祉の早慶戦』の調布稲門会の成績について、林さんは「第1回は引き分け、その後はずーっと連敗。(1991年~2014年24連敗)三田会は女性会員が多く強かった。5年前に調布稲門会が勝ち、その後5連勝でようやく溜飲が下がりました。」と安堵されたご様子。「女性会員が増えてバザーで活躍してもらえるようになりました。」



設立総会の模様を伝える『紺碧』創刊号



『福祉の早慶戦』一隣り合わせて販売合戦 2019福祉バザー

そして「福祉バザーでの経験がコロナ禍で始まった学生応援フードパントリー調布、40周年記念事業として開始するフードバンク活動に繋がっています。」とお答えしました。

**<最後に>**

設立当初から18年間会長を務められた林さんの思いを引き継ぎつつ、時代に合わせ柔軟な会の運営をして行かなければならないと身を



調布稲門会の長老達と林さん(左から3人目)&山田会長(左端) 2019福祉バザー

引き締めました。

最後に母校に対する思い、将来に向けての会員へのメッセージを伺いました。「校歌を歌うことです。そして自分が出来ることは、これから

も出来るだけ稲門会の行事に出席することです。」

## —林名誉会長とのインタビュー対談を終えて—

### 稲門会との関わり、そして調布稲門会の将来像—山田和子

林さんとの対談を通じて、私自身の稲門会活動の経緯や調布稲門会の将来像にも触れてみます。

#### ◇稲門会との関わり◇

入会のきっかけは2004年5月、調布稲門会から届いた入会案内。子育ても一段落した頃で、母校への懐かしさもあり気持ちが動きました。しかし会の雰囲気がわかりません。同封の「紺碧」で、ワンゲル同好会(現ウォーキングの会)女性会員の誠実な人柄がにじみ出た文章に触れ、このような会員がいる会だったらと入会を決めました。

入会后、食べ歩き同好会入会を希望していましたが、無いとのこと。それならばと、2005年に「食・歩会」を立ち上げました。「女性限定で」が当時の女性会長の要望。不思議に思いましたが、後で女性会員を増やしたいとの会長の思いが分かりました。年2回文化施設などの見学とその近くでの食事会は既に24回実施。その他新年会、茶話会も行い女性会員・準会員が徐々に増えていきました。2011年5月総会では、東日本大震災被災者支援の



女性の会「自由学園明日館」見学

ために、有志で作ったケーキを総会にて販売、校友会を通じてその売上金を被災者へ寄付したこともあります。

2015年に女性全員が自動的に会員となる「女性の会」に組織を変更し、新たに隔月の近場でのランチ会を加え更に親睦を深めました。そのような折に福祉バザーリーダーを仰せつかりました。バザーではどれだけ品物を集められるかが勝負です。家庭を管理している女性に訴えなければ品物は出てきません。10年



女性の会「都電荒川線」車両貸切ツアー

以上培ってきた女性会員同士のコミュニケーション

ンがその年のバザーで花開き、現在に至っています。女性会員・準会員は現在50人を超えています。

### ◇会の活性化◇

林さんは、設立に当たり調布稲門会を「心のふるさと」にしたいと抱負を述べられました。

戦争のない平和な日本の今の時代に、早稲田の杜で学んだ同窓生が、調布市内で日々の暮らしを営む、そんな縁(えにし)を大切にしていきたいと思えます。潤いある・心通じ合う居心地の良いコミュニティを築き、秋の芋煮会など「キテネ」特別プロジェクトをはじめとする多彩な活動・イベント



秋の芋煮会で会員同士の親交深める

トを通じて楽しい時を過ごしたいと思えます。会員・準会員の皆さんの入会動機はそれぞれと思えますが、共通しているのは、「人の温もりの希求」ではないでしょうか。世代や性別の区別なく誰でもが集える「心のふるさと」を作るとともに、活気ある組織体制を目指します。

### ◇地域や大学への貢献◇

学生応援フードパントリー調布に主導的な立場で参画し、生活環境が激変した学生に食料ほかを提供しました。社会福祉協議会、フードバンク調布、子ども食堂ネットワーク、大学等関係団体と連携し昨年10月以来3回実施しました。「これで修論を安心して書ける」との学生の声もありました。行政にこのパントリー情報が伝わることによって気になる学生たちと連絡を取るきっかけになっていると聞いています。学生たちが安心して勉

学に励み、この調布より羽ばたいてもらえるよう、応援活動を継続していきます。

林さんは福祉バザーを会の伝統行事に育てられ



「学生応援フードパントリー調布」に取り組む

ました。今後は、福祉バザーと共にフードパントリーを端緒に、フードバンク活動につ

いて、軸足を定めるべく検討を進めていきます。一步踏み出すと景色が違います。地元で出来るところから取り組んでいきます。

母校の後輩も同様の状況に置かれている方がいます。微力ですが、支援活動を継続していきます。そして、母校に対しては、稲門祭等への参画等を通じて後輩の支援活動を継続していきます。

支援された者が支援する者の温かい気持ちを受



け止めることで温く優しい気持ちを育み、次は支援する

側に戻る。

仕分作業に大わらわ—学生応援フードパントリー 側に戻る。母校で学び、社会生活で得た知見をフル活用し、温かい心のバトンプスの一端を担う、そんな嬉しさを感じます。

最後に、調布市にお住いの校友の皆様、『会員相互の親睦』、『早稲田大学の発展に寄与』『地域社会へ貢献』、いずれでもご興味のある分野で活動できます。ご入会を会員一同お待ちしております。

## 「平成卒」若手幹事大いに語る

調布稲門会の役員・幹事27人中、「平成卒業」の“若手”幹事は5人います。調布稲門会の将来を担うフレッシュな「平成卒」幹事3人で、自身のこと、調布稲門会との関わり、活動あれこれについて率直に語り合いました。新しい提案なども多々あり、有意義な試みとなりました。この座談会は、令和3年5月14日にオンライン（ZOOM）で開催しました。（嶋田浩一）



出席者：嶋田浩一（平2教育、写真中下）

山田あかね（平7人間科学、写真右上）

納野（なや）知広（平13商、写真左上）

放課後等デイサービス『ちょうふの風』施設長

税理士法人 Gri - n 代表税理士

納野国際会計事務所 代表

**嶋田** 皆さん、こんにちは。本日は調布稲門会の40周年記念企画として「若手幹事、かく語りき」というテーマで集まって頂きました。ただ・・・私自身はこの『若手』という呼び方はちょっと恥ずかしいやら照れるやらで、抵抗があるんですけど・・・まあ同じ『平成卒』の幹事ということで参加させて頂きました。司会等の役割は特に決めておりませんが、とりあえず年の順ということで私から簡単なプロフィールをお話し致します。

私は平成2年教育学部の卒業で、調布稲門会には6年前に入会致しました。仕事は、調布市国領町で『放課後等デイサービス ちょうふの風』という障害児の支援施設をNPO法人として運営しています。

また同じ国領地域で『こくりょう子ども食堂わいわい』というボランティア活動も主催

しています。そういう意味では、もうドブプリと調布に染まっていますね。

**山田** 平成7年人間科学部卒の山田あかねと申します。調布生まれの調布育ちです。調布稲門会へは、父が稲門会の方が主宰するサークルに参加させて頂いたのをきっかけに準会員になり、私が正会員になりました。仕事は、府中で『税理士法人 Gri - n』の代表税理士をしています。この2年ほど稲門会の諸行事にも参加させて頂きましたが、確かに50歳代以下の方が少なく・・・、もっと50代以下の方も参加しやすい企画があればなあと思っていたところでした。そういう意味では、この座談会を機に何か提案できるといいですね。

**納野** こんにちは。私もぎりぎり調布市に含まれる仙川で生まれ育ちました。平成13年商学部卒で、現在は仕事でも仙川で『納野国際会計事

務所』という会計事務所を自分でやっています。30代になって独立したのに合わせて仙川に戻ってきました。稲門会との関わりは、主にテニス同好会の練習への参加が中心です。初心者でしたが、諸先輩に色々教えて頂きながら続けています。

**嶋田** ありがとうございます。今回は40周年記念として広く会員を募るという趣旨ですが、ちょうど山田さんもおっしゃっていたように、特にこの企画では50代以下の世代の方達にも、もっと参加して頂こうという思いがあります。実際に私たち3人も仕事をしながらの参加ですが、そうした現役世代にとっても参加しやすい魅力のある稲門会って皆さんどういったイメージがありますか？

**山田** そうですねえ、やっぱり仕事をしながらです。時間的な制約もありますよね。そういう意味では、なんて言うか「ゆる〜い」関わりの様な、例えばビジネスやボランティアや飲み会、またスポーツなどのアクティビティ等の交流ができればいいかなあとと思いますね。あと、私は小学生の子供がいますが、子供を連れて参加できるような企画があると、子育て世代のパパさんママさんでも参加し易いんじゃないですかね？

**納野** 私もそう思います。私は調布稲門会のテニス同好会に参加させて頂いていますが、そうしたカチッとした同好会だけではなく、もうちょっとゆるい集まりがあっても良いのではと思います。

最初は2ヵ月に1回とか、人数も3人位からとか、そんなところから始まってもいいと思います。例えば「親子サッカー」とか「フットサル」といったスポーツ系から、「ロボット教室」や「プログラミング」といった勉強っぽいもので、親子がふらっと来られると良いかもしれない。まずは、『日常とは違うふれあいの場』を提供することが大切のように思います。

**山田** 親子だったらバーベキューなどのアウトドアなんか、すぐに計画できて子どもたちにも魅力的ですよ。近場でも『かにやまキャンプ場』や『野川公園』といった手軽な場所もありますしね。また、遊びだけでなくボランティアだって『日常とは違うふれあいの場』になりますよね。そういった繋がり、海外では結構一般的だったりします。

**嶋田** 稲門会にも『Bor・n』というサークルがあって、『ちょうふの風』にもボランティア体験に来てくれています。確かにサークル活動の一環ではなく広く募ることで、より多くのつながりになりますよね。

**納野** 会員だからとか非会員だからといった垣根を取っ払って広く参加を募っていきながら、回を重ねてやっていくうちにしっかりとした【発信】や【提示】につながっていくのではないかと思います。そういう意味では、参加者のハードルをさげるために年会費の必要性についても一考の余地があるかも・・・(笑)

**山田** いかがでしょう、まずは夏くらいに数人で集まってバーベキューでも企画してみてもいいかな？とそこにはコロナも少しは収まっていくのではないのでしょうか？期待ですけど。

**納野** それいいですね！バーベキューが無理でも、飲み会くらいはできるのではないのでしょうか。

**嶋田** おおっ、大分具体的になってきましたね。先ずはやっぱりお会いすることから始めるのがいいようですね。夏ころまでに、幹事以外の平成卒の校友に何らかの形で発信できれば結構集まるかもしれませんね。

**山田** なんだか楽しみになってきました。ぜひ実現させたいですね。

**嶋田** まだまだやりたいことを挙げていけばどんどんアイデアが出てきそうですが、今日のところは、「先ず夏ころを目途に集まる」「それまでに、幹事以外の校友にもお知らせする」といったところでまとめたいと思います。皆さん、本日はありがとうございました。

# 調布稲門会に入ってよかった！

40周年の節目を迎えた調布稲門会、その活動は会員同士の親睦、母校の発展寄与にとどまらず、調布という地域へ多面的に貢献する活動にも大きく広がり、まさに円熟期を迎えています。その活動を支え、一線で活躍する会員から活動状況や活性化に向けた活動・提案について生の声を寄せて頂きました。

## ◇私と稲門会 堀龍之介(昭38理工)

地元の先輩の推薦により40年前に入会しました。



ゴルフ・麻雀・ソフトボールなど参加し、ゴルフでは、近所のゴルフ場で和気藹々親睦を図りました。麻雀は、特に印象的な方が多く豪放磊落酒を

楽しみながら麻雀を楽しむ柴田さん、本当に負けを知らない雀士、花を添える美女雀士など、また河野・椎原元会長と懇意になれたのもこの会のおかげと思います。ソフトボールでは、市内各大学OBとの交流試合など旧友と再会を楽しみました。

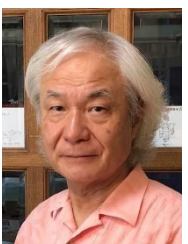
その一方、徐々に笠原、河野、元木、椎原会長の組織内で稲門会の社会奉仕活動や大学との交流などにも参加し、バザー・音楽会・講演会の実行委員会に入り協力してまいりました。

会員同士の一体感・親睦・成功の喜びはチームならではの楽しみがあります。

私の考えとしては、稲門会と地元調布市との密接な事業・大学の豊富な知力・学力のそれら事業への活用を行い、調布稲門会のますますの発展につながればと思います。

稲門会に入会し、いろいろな方とお知り合いになり、いろいろな事業に参画できたことを幸せを感じています。

## ◇母校へ再接近！ 潮田健太郎(昭52年理工院)



入会のきっかけは5年前の一枚の葉書、調布稲門会から芋煮会の案内が舞い込んだことでした。調布に引っ越してから20年も経っていたのに調布稲門会のことは全く知りませんでした。芋煮会というのがいかに早稲田らしい

のと、場所が娘の出身小学校の裏のカニ山という馴染みの場所だったので気軽に参加しました。秋深い里山での芋煮、酒盛り、校歌放吟は思った通り早稲田らしく、久々に学生気分に戻りました。

そこでの自己紹介で、ピアノが特技と申し上げたところ、丁度いい、新年会で演奏して、と頼まれました。その演奏を聴いた稲門会大先輩であるジャズのプロデューサーに誘われ、名門ライブハウスで一流のプレイヤーと共演する機会も得ました。実は学生時代にも、ある音楽サークルの部室でピアノを弾いていたら、ダンモ(モダンジャズ研究会)の先輩に声かけられてナイトクラブに出演する様になったことがあります。まさに学生時代の追体験でした。

皆様は、学生時代には様々な友人から多くの感化を受け、その後の人生を形作ったことと思います。卒業後、社会に出て多様な人生を歩んだ学友たちに再び出会えたら、人生はさらに豊かになるでしょう。「散じて集まり」、それが調布稲門会です。

## ◇多士済々な諸氏との出逢いに感謝

### 石田欽也(昭55商)



2013年某月の深夜、市内の某バーのマスターから稲門会への入会を勧められた。H先輩がバーの常連というご縁であった。体育会系気質の私は「先輩」という響きに減法弱く、ほぼ無抵抗に会費3,000円(縁)をマスターに託した。H先輩のお誘いが日常に彩を添えることになるのだから人生は面白い。多士済々な同窓の諸氏との出逢いに感謝である。岡崎市出身の私は三河弁でいう「らんごく」(乱雑)な性格である。諸氏のノーブルな振舞いにコンプレックスを



感じつつ勉強になる。同好会活動では、カラオケで”がなり” 専門の私に対してシックでダンディなT先輩と軽妙なU先輩、ゴルフコンペでY先輩の3回目のホールインワンではクラブの証書授与式を目撃し、麻雀で青春の早稲田の雀荘に想いを馳せ、S先輩のお誘いでジャズの世界を嚙り、O先輩の紹介で郷里の関取に知遇を得た。稲門祭の副本部長を経験した

ことで熱烈なワセダ愛に満ち溢れた諸氏と出会う等々楽しみも多士済々であった。勝手放題の半生であったが、本年幹事を拝命したことを契機に罪滅ぼしのためにも浅学非才の身ではあるが、コロナ禍で「孤立」、「分断」が喧伝される世相に負けず、会を盛り上げていきたいと思う。

## 今後の稲門会の姿・展開は？

### ◇地域と共に発展する我ら稲門会

萩原 稔(昭55教育)



40年間と言えば、1980年入社  
の私の会社生活とほぼ同じく、それを思うと調布稲門会もまさにいろいろな世情と共に足跡を残してきたこと、まずは先輩諸氏のご尽力に感謝申し上げます。

げたいと思います。

地域と共に発展していく稲門会であることがこの周年行事の通過点を走る我々の使命ではないでしょうか。グローバルで展開しているSDGs(持続可能な開発目標)という現代の社会課題の解決に向けた取り組みと目標がありますが、我々の生活の身近な課題ばかりです。住環境の改善、食問題への取り組み、そして分け隔てなく住み続けられる街づくりに貢献していくことで共に発展し続ける稲門会の姿もあるはずです。この思いと実践を皆さんと共有していくことがこの40年から次へ繋ぐレガシーと思います。

地域での活動にいろいろと取り組まれている個人個人の知見を結集して、お互いの親睦、地域と大学への貢献と愛着精神で稲門会の未来を支えたいと思います。是非ご一緒に取り組みましょう。

### ◇中世ヨーロッパの広場のような楽しみの場



原田敦夫(昭52法)

私が調布稲門会へ入会したきっかけは、退職を機に10年程途絶えていたテニスの再開を思い立ち、稲門会

のテニス同好会なら以前通っていたスクールよりも安くプレー出来るのでは？という不埒な考えを持ったことでした。

そんなきっかけで入会したのですが、テニスや稲門会の活動にも参加する様になり会員の皆さんとも会話を交わすようになりました。そこで感じたことはそれぞれが初見では想像もつかない卓越した知識や様々な経験をお持ちで一風変わった味わいの方々も多くいらっしゃる事でした。そんな皆さんとの交流は予想を超えて楽しく意義深いものだと感じています。

ただ一方で、会全体の会員間での交流や参加の頻度には偏りもあり、会員それぞれが互いの個性触れるというにはまだ大きな隔りがあるように思います。これを解消するには、まず楽しさを優先させ、同好会のように組織だったものだけでなく色々なカテゴリーの柔軟な集まりが今よりも多く開かれるようになればいいのではないかと思います。

中世ヨーロッパの広場は、様々な人種や職種の人々が行きかい交流した結果、多様なコミュニケーションが生まれ、新しい文化・文明・芸術が生まれるきっかけの場所になったという話を聞いたことがあります。

コロナ禍が去った後のことにはなるとは思いますが、調布稲門会もそのように、会員の皆さんがより気軽に行き交い集う場になれば楽しさも増していくのではないかと思います。もちろん参加の頻度や深さは広場同様各人の勝手次第ということで…。



# — 躍動する同好会活動 —

## 調布稲門会の活動紹介

調布稲門会には会の総力を挙げて取り組む福祉まつりのバザーや、早稲田大学校友会行事の稲門祭参加の他、「キテネ」と13の同好会があります。それぞれの活動を通して会員相互の親睦を深め、会を活性化し、大学や地域にも貢献することを目指しています。

会員の皆さん、また調布市在住の校友の皆さん、ぜひ活動にご参加ください。

### ◆ サロン・ド・三多摩を出店

#### 稲門祭

稲門祭は早稲田大学校友会最大の行事です。毎年10月第4日曜日に開催されます。全ての校友とその家族、近隣住民、

早稲田ファンの誰でも参加できるオープンなお祭りです。早稲田キャンパスでは、イベントや福引抽選会、模擬店等が展開されます。



早稲田ファンでも参加できるオープンなお祭りです。早稲田キャンパスでは、イベントや福引抽選会、模擬店等が展開されます。

調布稲門会は、三多摩の各稲門会と合同で模擬店「サロン・ド・三多摩」を出店し、深大寺そば等地元の物品を提供しています。発展を続けるワセダを感じつつ、昔日を回顧しながら秋の一日を楽しみます。

### ◆ 障害のある人もない人も共に支え合う

#### ボランティア・ネットワーク (Bor・n)

障害のある子供たちへの余暇活動支援を中心に行っています。



調布特別支援学校PTAによる子供たちのお祭り「調布まつり」や、おしごと体験の補助をする「調布ぷれジョブ」等様々な活動にボランティア

参加をしています。また年に一度、発達障害児・者の理解と支援を目的とする講演会を一般公開して開催し、学びを共有しています。

同じ地域に住む一人として、街で出会った時に共感をもって接して、さりげない支援ができる事を目指しています。資格などは必要ありません。新しい出会いから何かを産まれる”。Bor・nで一緒に活動しましょう！

### ◆ 調布稲門会を面白くするプロジェクト

#### 「キテネ」

「キテネ」は同好会ではなく、調布稲門会全会員を対象に、タイムリーで話題性のある様々なイベントを行なっています。

中でも「カニ山芋煮会」は好評で回を重ねています。当日午前中は調布市主催の野川クリーン作戦に加わり、午後からカニ山で芋煮会を行います。調布在住の校友に送付している案内状を見て参加して、その後、稲門会に入会したという人が何人もいます。また、三田会の会員が参加された回もあり、親睦が深まり交流の輪が広がりました。

他には ANA 羽田整備工場の見学や、六大学野球早慶戦の観戦、米国大使館市民交流会への参加やワセオケ鑑賞、築地・豊洲見学なども行ないました。最近では、専門の医師を招き関節の痛みについての講演会や、AEDの実地訓練、当会会員の鍼灸師による鍼灸治療の講演と希望者の体験治療が大好評でした。一人ではなかなか行けないから行ってみようか” そんな感じで気軽に参加してください。



### ◆ おいしいものを食べて知的好奇心も満たす

#### 女性の会

女性会員全員のコミュニケーションと親睦を図る会です。文化芸術施設の見学や散策、軽食会等を行っています。2018年は東村山の多磨全生園見学とピクニックランチ、2019年は学士会館&北の丸公園散策と割烹ランチを実施しました。



また、リーダー自宅での新年会や茶話会を開催し、近隣稲門会女性会員との交流も行なってい

ます。コロナ禍での自粛期間中は、LINEでのオンライン茶話会でコミュニケーションをしています。

#### ◆ おじさん達の料理教室

##### クッキングパパ



先生の指導の下、3、4人のグループで協力しながらワイワイガヤガヤ楽しく料理を作っています。完成したらビールを飲みながら試食し、あーだ、こーだと批評し合います。現在のメンバーも相変わらずの初心者なので、気軽に参加してください。

#### ◆ 海へ、山へ、街へ 元気ハツラツ

##### ウォーキング

東京・神奈川・埼玉などの近郊を散策して、自然・文化・



歴史に親しんでいます。これまで、鎌倉、秩父、奥多摩、三浦半島、小田原、江ノ島、川越などを歩いてきました。身近な大自然の高尾山へは、頂上から見る富士山と名物とろろそばを楽しみに何度も登っています。

#### ◆ 各国留学生による国際理解講座

##### 語ろうアースカフェ

国の将来を担う若い留学生たちに、彼らの目を通して、文化、政治、経済など自国の現在と未来を語ってもらう国際理解講座(1ヵ国4回)です。



2013年のウズベキスタン講座に始まり、

ミャンマー、スウェーデン、エストニア、タイ、ブラジル、セルビア、ブルガリア、北マケドニア、2020年のモルドヴァ講座と回を重ねてきました。各講座終了後にその国へ旅行に出かける企画もあります。



さらに2017年度からは「世界の食文化講座」として、中央アジア、ロシア講座や「知っておきたい食の国際儀礼講座」が加わり活況を呈しています。

聴講者は稲門会会員に留まらず、留学生や学生、一般市民が加わり、国、世代を超えた交流活動を行っています。フルに聴講するのも、興味、関心に合わせてセレクトして参加するのも自由です。ここには新しい知識と出会いと気付きがあります。まずは参加してみてください！

#### まだまだあります。頭も身体も活性化する同好会！

##### ◆ 囲碁

囲碁を楽しみながら技量の研鑽と会員相互の親睦に努めています。囲碁は頭脳の活性化にもお勧めです。

##### ◆ カラオケ

歌うことは心身ともに健康の源です。コロナ収束の暁には思い切り声を出して一緒に歌いましょう！

##### ◆ ゴルフ

和気あいあいとプレーして、技量の研鑽と会員相互の親睦に努めています。三田会とのコンペも行います。

##### ◆ 調布太極拳

1984年創設の歴史ある会です。ゆったりとした太極拳の動きを通して、身体と心の健康を目指します。

##### ◆ 調布ダンス

社交ダンスの同行会です。調布ダンススポーツ連盟に加入して競技会にもチャレンジしています。

##### ◆ テニス

気軽に硬式テニスを楽しむ会です。ダブルスの試合形式で行い、コートはいつも明るい歓声で賑やかです。

##### ◆ フラダンス

「アロハ！」ゆったりした音楽に合わせてみんな笑顔で踊っています。「元気で長生き」をめざしませんか？

##### ◆ 麻雀

調布稲門会設立当初からの同好会です。コロナ禍が収束したら、頭脳活性化の一助に卓を囲みましょう！

＜ご挨拶－編集後記に代えて＞

幹事長・設立40周年記念事業実行委員長 石田欽也(昭55商)

調布稲門会は本年10月に設立40周年を迎えます。記念事業のため、毎年資金を積み立て、企画立案し、いざ実行という段階になって未だコロナ禍の収束は見えませんが、混迷の時節だからこそ「ピンチはチャンス」と捉え、会員・非会員の結束を強固に、新型コロナウイルスに打ち勝つためにも記念事業実行に向けて動くことを決断、幹事一同粉骨砕身奮闘中です。会員・準会員の皆さんから応援頂けると嬉しいです。

なお記念事業実行委員として汗をかいているメンバーを顕彰方々ご紹介(敬称略)致します。

舟久保賢一(昭55法)、萩原稔(昭55教育)、大浦広己(昭55政経)、中谷俊一(昭56教育)

調布稲門会設立40周年記念号 編集委員会

編集委員 石田欽也(昭55商)、潮田健太郎(昭52理工院)、

天野凡子(昭56文)、原田敦夫(昭52法)、

川嶋菊枝(昭58文)

編集委員(顧問) 高原浩(昭44法)

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事 <b>元祖 嶋田家</b> 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>「露ろうアースカフェ」代表 <b>山田 和子</b> (調布稲門会会長) 自宅 〒182-0035 東京都調布市上石原3-39-15 電話 042-488-0741 E-mail: kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp</p>	<p>林建設株式会社 取締役社長 <b>林 清一</b> 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-56-3 電話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>大切なお住まいをいつまでも美しく! 外壁塗装・屋根塗装 <b>(株) 住まいるスズキ</b> 鈴木 光孝 〒182-0023 調布市染地3-5-65 電話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UV プリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショップカード・ポストカード 記念誌・自費出版・アルバム等  <b>株式会社 内田平和堂</b> ☎ 03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー <b>(株) 正直屋グループ</b> 住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-7-10 電話 03-3853-1171 FAX 03-3853-1493 <a href="http://www.shojikiya.co.jp/">http://www.shojikiya.co.jp/</a></p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。 行政書士堀内総合法律事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>舟久保法律事務所 弁護士 舟久保 賢一 住所 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-8 親和ビル5階 電話 03-6273-7917 FAX 03-6273-7918</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 調布クレストンホテル 住所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布バルコ8~10F 電話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 <a href="http://www.crestonhotel.jp">http://www.crestonhotel.jp</a></p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問 <b>元木 勇</b> 自宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る <b>株式会社山田屋本店</b> 代表取締役社長 秋沢 淳雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 <a href="http://www.okomekan.net/">http://www.okomekan.net/</a></p>	<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問 <b>椎原 大典</b> 自宅 〒338-0004 さいたま市中央区本町西4-17-25 コンフォール与野本町西501号 電話・FAX 048-853-8223</p>